

平和への道標～朝河貫一のメッセージ～

(令和5年8月12日放映)

早大文学学院・甚野尚志教授の解説や、番組で取り上げていただいた立子山地区の皆さんと子どもたちのコメントを紹介します。



早稲田大学文学学院 甚野尚志教授

「当時、世界・日本が危機の状況の中で客観的にどういう方向が正しいのか分析できた人がいたのか。

孤立しながらもそういうことをきちんとできた知識人がいた。それが朝河貫一である。

現在、世界情勢がこういう状況だから、改めて今、再評価される」

NPO 法人地域のみんなのチカラ理事長

朝倉鉄哉さん

「天正寺敷地内に残る旧立子山小の校舎は、朝河貫一博士の父・正澄先生が立子山に来られた時、活動をされた地区で初めての学校となります。当時は戊辰戦争が終わって間もなくでした。

この静かな村に来てのびのびと勉強したのでは、と思います」



NPO 事務局 斎藤信行さん

「報恩之辞は、明治36年に貫一博士の父・正澄さんが小学校の校長を30年間務められたのち、退職される際に地元の方々から贈られたもの。お父さんが亡くなられて遺品を整理されて、博士がイェール大に持ち帰られた。それだけ貴重なものと博士も理解されていました。これは歴史であります。

我々が次世代にこういう事実があった、ということ伝えていきたい」

立子山小保護者 寺島正嗣さん

「今こうして報恩之辞に触れ、その当時、120年も前の立子山に、地区のために身を粉にして指導にあたられた正澄校長先生と、薫陶を受けた村民との心の通い合いがありました。

そのお互いを思いやる心の豊かさが、現代の私たちに伝わる立子山の風土そのものであり、誇りであると思います」





立子山小6年 羽田朔斗くん
 「朝河太鼓は、全校生で考えてきたので張り切って演奏し、地区の皆さんに発表できればいいなと思い、臨みました」
 (立子山ふれ合いデー)



立子山小5年 寺島咲絵さん
 「今日、地区の皆さんへの初めての太鼓ひろうでした。思ったよりたくさんのお客さんがいて緊張しましたが、良い演奏ができました」
 (立子山ふれ合いデー)

立子山小3年 佐久間洸斗くん
 「1月からみんなと取り組んできた朝河太鼓は、やってみてとても難しかったけど、今日発表できて楽しかったです」
 (立子山ふれ合いデー)



NPO 会員 高橋順子さん
 「子どもたちの太鼓演奏をみて、ずっと先生の教えが繋がってきたような感じでうれしいです。誇りです。」
 (立子山ふれ合いデー)